



Twitter



YouTube

明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 183

2022

11.8

「あさぎり わくわく ラボラトリー」前夜祭を開催しました



初めてのリアルな対面での対談を
Zoom 配信に挑戦

11月1日(火)にオンラインで「あさぎり わくわく ラボラトリー 前夜祭」を開催しました。朝霧小の研究発表会ですが、従来なら朝霧小学校〇〇科研究発表会となるところですが、あえて「あさぎり わくわく ラボラトリー」とネーミングされた意味や想いが、朝霧小学校の先生と対話を重ねること伝わってきます。

私自身は、これまでの研究発表会が、授業参観では指導案にメモを取り、全体会では講師の先生の話のメモを取るといった、受け身的立場での参加であったのが、今回の「あさぎり わくわく ラボラトリー」では、まさしく研究所の一員として楽しみながら、新たなものを創出する当事者として参加するという理解をしています。メモをとることよりも、脳みそが汗をかくくらい考えることを楽しみ、新たな価値を一緒に見つけましょうというメッセージが込められているのだと思います。

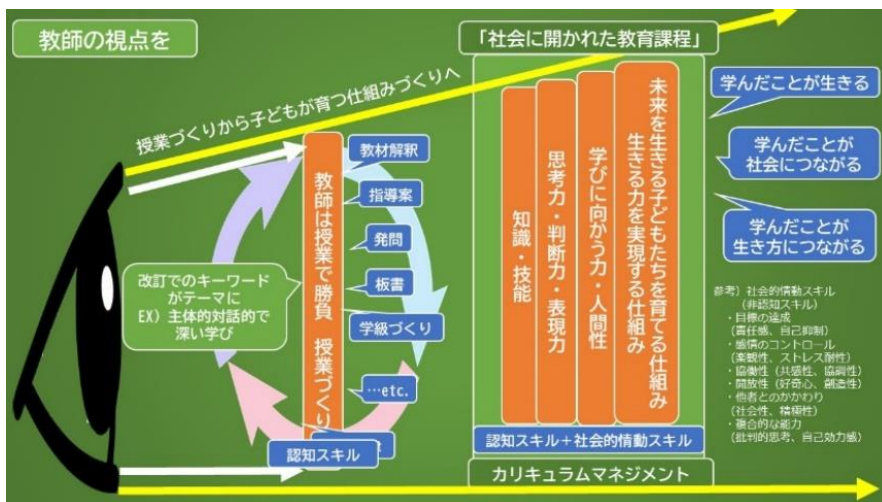
前夜祭では、朝霧小学校の取組んでいるプロジェクト学習の大枠を話していただき、その後、予告として、各学年より見どころを紹介していただきました。当日の授業だけでなく、授業の構想段階、これまでの流れ、今後の方向性といったことを聞きくことができ、ワクワク感が高まってきました。そして、参加者の皆さんからも積極的に質問や意見をいただきました。プロジェクト学習への質問、そしてプロジェクト学習と教科学習との兼ね合い、地域と創り出していく活動、幼稚園の先生からは主体的に学ぶ子どもの姿…など、とても濃い内容のものが次々とだされました。どれも答えがあるものではなく、誰かが答えをもっているものではなく、これから創り出していくものだけに、当日の授業、分科会、そして熟議の中で何かしら方向性が見えてくる対話が行われるのではと楽しみにしています。

前夜祭が終わった後、校長室での反省会の中で、朝霧小の先生から、若い先生たちに10年後、20年後の自分の姿を、10年後20年後の学校の姿を描ける力を持ってほしいといった話や、心理的安全性が保障された対話ができる環境づくりといった話を聞き、若い先生たちを育てていこうという責任感を強く感じました。10年後、20年後の自分の姿を、10年後20年後の学校の姿を描ける力を身につけていくために



職員室前方にスクリーンを配置
ラボの様子を聞きながら仕事を

「何のために教育をしているのだろうか?」「目指す教師像とは?」といったテーマで熟議(ラボ)を重ねていると聞き、朝霧小のラボろうの持つ意味が納得できました。「何のために教育をしているのだろうか?」「目指す教師像とは?」といったことは学校の中で話をしているようで、実際は改めてそういったテーマでは話をしたことが無いというのが正直なところではと思います。当日、多くの人に、そんな熟議を体験していただけるのではと思います。



そんな朝霧小学校の取組を聞きながら、朝霧小学校の先生方が見ているのが“授業づくり”の向こうにあるものではないと感じました。当然、1時間1時間の授業は大切です。その授業づくりがゴールではなく、またその授業をつなげるだけでなく、“社会の中で子どもが育つ仕組み”を視野に入れているのではと感じました。

そうした仕組みを創り出す力が先生方には必要になってくるのではと思います。だから、カリキュラム・マネジメントが大切になってきているのだと感じます。

Instagramでの情報発信



松が丘小学校区でInstagramの情報発信が始まりました。“team-matugaoka”のアカウントで学校・地域・PTAの情報発信の共通のプラットフォームとして、Instagramの活用をスタートされました。日々の子どもの様子、地域やPTAの情報がどのようにInstagramで発信されるか楽しみです。



“うちのうり” 紹介 No. 8

錦が丘小学校の“うちのうり”

○令和2・3年度と外国語科、外国語活動について研究を行ってきた。

まずは職員から楽しみながら外国語の学習に取り組んだ成果として、子どもたちが純粋に外国語を話したり聞いたりすることを楽しみ、人とつながりたいという姿勢が多くみられるようになった。

○今年度から、校長が新しく学校のグランドデザインを作成した。このデザインを実現できるように、“チーム錦が丘”の力を合わせ、児童の学びと育ちを促していきたい。

(文責：北本)